

思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、 コミュニケーションを楽しむ外国語の学習

I 外国語活動・外国語科研究の方向性

1 主題設定の理由

外国語教育においては、小学校から高等学校まで、「コミュニケーションを図る資質・能力の育成」を一貫する目標としており、段階的な資質・能力の育成を目指しています。特に小学校では、中学校以降における外国語教育の素地・基礎づくりという重要な役割を担っています。新学習指導要領では、新たに「思考力、判断力、表現力等」に関する目標が加わり、言語活動を通じた指導の充実を図ることが求められています。

前研究では、言語活動を充実させる学習づくりを進めたことにより、児童は、相手や目的、場面等を理解しながら安心してコミュニケーションを図ることができ、学習意欲を持続しながら語句や表現を身に付けることができました。一方で、児童を学習の主体とするための指導計画や、児童へのフィードバックの在り方、自分の思いや考えを深めることができるような自己評価の活用方法について、改善する必要があることが分かりました。

本校では、平成25年から4年間、文部科学省の研究開発学校に指定され、全学年で外国語教育に取り組んできました。全校児童へのアンケート調査からは、英語を話すことに楽しさを感じたり、もっと話せるようになりたいと意欲をもったりする児童が多く、英語に慣れ親しむ経験を低学年から積み重ねてきた成果と捉えることができます。前研究の課題も踏まえつつ、本校の児童のよさを更に伸ばすためには、次のことが重要であると考えます。

- 児童が思いや考えをもちながら、十分にコミュニケーションを図ること。
- 自分の思いや考えを伝えられなかったことを振り返りながら改善できるようにすること。
- 話す楽しさや自分の思いや考えが伝えられた喜びを感じられるような活動を工夫すること。

全体研究では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」を主題としています。それを受けて、外国語活動・外国語科における探究する児童の姿を、「コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め、自律的な学びを進めることで自信をもってコミュニケーションを図る児童」と押さえました。

以上の、外国語活動・外国語科として求められることと、本校の研究の成果と課題を踏まえ、研究主題を「思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、コミュニケーションを楽しむ外国語の学習」と設定しました。本研究を通して、語句や表現等を使いながら身に付けたり、他者と思いや考えを伝え合ったりすることを往来しながら資質・能力を育む言語活動について明らかにしました。そして、その言語活動を通して、資質・能力を育むとともに、コミュニケーションそのものを楽しむことができる学習を目指しました。

2 目指す児童の姿とその具体

コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め、自律的な学びを進めることで、自信をもってコミュニケーションを図る児童

「コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高める」とは、実際に英語を使った活動から、既習や未習の語句や表現等をどのように使っていくのか見通したり、活動に対する思いをもったりする姿です。

「自律的な学びを進める」とは、「既習の語句や表現等をもっと使えるようになりたい。」「新たな語句や表現等を身に付けて活動してみたい。」など、自ら外国語の学習に積極的に取り組む姿です。

「自信をもってコミュニケーションを図る児童」とは、語句や表現等を実際のコミュニケーション場面で使うことを通して身に付け、生きて働く言葉を獲得する姿です。

Ⅱ 研究内容の具体

1 コミュニケーション場面における気付きを促す単元構成

コミュニケーションの場面における気付きは、言語活動を通して言語や文化を体験的に理解するきっかけとなり、単元全体の活動への意欲を高めることにもつながると考えました。ここでは、新たな語句や表現等との出会い方や、既習の語句や表現等を継続的に使うことができるような単元構成について、明らかにしました。

○CAN-DOリストを基に具体化した指導計画

- ・本校が作成したCAN-DOリストを基に、具体的な場面例や語句、表現を指導計画に位置付ける。 ※「Ⅲ 実践事例」参照

○既習の語句や表現等の定着を図る学習活動の設定

- ・単元を通して、既習の語句や表現の定着を図るために、Warming Upや1単位時間における学習活動を工夫する(Small Talkの設定、「Let's Listen」などのデジタル教材の活用等)。

○活動のイメージを具体的にもたせるための活動の設定

- ・単元の導入時に教師(HRTとALT・JTE)によるDemonstrationを行ったり、アンケート結果や作品などを提示したりして、単元全体やゴールへのイメージをもたせる。

2 自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫

自信をもってコミュニケーションを図るためには、語句や表現等を実際のコミュニケーション場面で使うことが大切です。「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」について、日常生活での対話場面を基にした活動や繰り返しのある活動を設定することで、効果的な指導ができると考えました。

○語句や表現に慣れ親しむための単元を通じた言語活動の設定

- ・毎時間の学習活動について、言語活動化する視点で見直し、意味のある文脈で語句や表現を確実に身に付けることができるようにする。
- ・単元の中に、単元のゴールの活動に近い形(語句を限定する、やり取りする対象を少人数にするなど)の活動を設定する。

○語句や表現に慣れ親しむことを支えるICT機器の活用

- ・既習や新出の言語材料から、自分の表現したいことに合わせて、絵カードや音声データ等を自由に使えるようにする。
- ・言語活動に必要な、自分が本当に伝えたいことの情報(写真や動画など)を、単元を通して蓄積できるようにする。

3 コミュニケーションの楽しさにつなげる評価

児童が自らの学びを振り返り、コミュニケーションの楽しさを感じたり、次時へのめあてを立てたりすることは、意欲的に学習する態度につながると考えました。ここでは、児童が学びを振り返るための工夫について明らかにしました。

○言語面での気付きを促すフィードバック

- ・語句や表現等を適切に使っている児童の姿を撮影し、画像や映像を全員で見ることによって、よいところを振り返る。
- ・実際に教師が児童とやり取りを行い、誤りの訂正(リキャスト)や発話を促す。積極的に表現しようとする児童の思いを認めながら、即時的に行う。

○自律的な学びを進める児童を育てる評価(振り返り)

- ・教師は、授業のねらいを基に振り返りの視点を設定する。児童は、その中から「特に頑張ったこと」を選択し、その根拠となることや次の学びにつながる視点について記述する。

<3年次研究の重点>

- ・CAN-DOリストを基に具体化した指導計画
- ・語句や表現に慣れ親しむことを支えるICT機器の活用

Ⅲ 実践事例

6年生実践 Let's Read and Act 2 『The Letter (by Arnold Lobel)』

実践のテーマ：音声を聞くことを通して語句や表現に十分に慣れ親しみ、相手に伝えたいことと書き表すことの結び付きを考える学習

1 研究授業のねらい

本単元では、音声を聞きながら文字を追って物語の流れを把握したり、語句や表現に十分に慣れ親しんだりするとともに、伝えたい相手や事柄を考えて語句や表現を選び、自分の思いや考えを手紙に書くことをねらいとしました。

単元構成にあたっては、本校のCAN-DOリストに照らし合わせながら年間指導計画を見直し、取り扱う内容を精査しました。

1時間目は、教科書に掲載されている物語『The Letter (by Arnold Lobel)』を取り扱い、挿絵を見ながら音声を聞いたり発話したりして、語句や表現に十分に慣れ親しめるようにしました。

2時間目（本時）及び3時間目では、手紙を書く活動を設定しました。小学校段階における「書くこと」では、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を扱い、書き写すことが中心となりますが、伝える相手や伝えたいことに合わせて語句や表現を選択できるような手立てを講じました。

2 単元の指導計画（3時間扱い）

《外国語活動・外国語科において目指す児童の姿》			
英語を使った活動から課題を見付け、活動への意欲を高め、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする姿			
《本単元のCAN-DOリスト》			
【読むこと】	6-2-イ	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。	
【書くこと】	6-5-イ	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。	
時	○学習内容 ・ 活動内容 【語句・表現】	◆CAN-DOリストの 具体的な場面 ◇他の単元との関連	ICTの具体的な活用例
①	<p>物語を思い出しながら読んでみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『The Letter』を読む。 ・教師が読む音声を聞きながら、英文を追視する。 ・物語の流れを把握したり、意味を捉えたりする。 ・場面を選び、役割分担をして読む。 <p>【語句】 sat, ran等の不規則動詞の過去形 【表現】 ○○ was ~./ You are ~. 等</p>	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教師による『The Letter』を聞く。 ◇Lesson 4で学習した過去形を取り扱い、新出語句の理解を促す。 	<p>読む練習のために、『The Letter』の音声ファイルを使用する（繰り返し聞く、速度を変える）。</p>
② (本時)	<p>手紙に使う語句や表現を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手紙のモデルを基に、表現を考える。 ・伝えたいことは何かを捉える。 ・伝えたいことが伝わるような文の順番を考える。 ○手紙を書く準備をする。 ・手紙を書く場面や状況を考える。 ・手紙で伝えたいことを考える。 ・手紙に使えるような語句や表現を考える。 <p>【語句】 sat, ran等の不規則動詞の過去形 【表現】 ○○ was ~./ You are ~. 等</p>	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆これまでに扱ってきた表現を想起する。 ◇Lesson 4で学習した過去形を取り扱い、新出語句の理解を促す。 	<p>表現を調べて（絵カードのストックから取り出す、検索する、など）整理する。</p>
③	<p>気持ちが相手に伝わるように手紙を書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手紙を書く。 ・書きたいことを決め、使えるような表現を選ぶ。 ・下書きをしてから、清書する。 ・書いたことを交流する。 <p>【語句】 sat, ran等の不規則動詞の過去形 【表現】 ○○ was ~./ You are ~. 等</p>	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆例文を参考にして書く。 ◆下書きしたものを適切に書き写す。 	<p>適切に清書できるよう、下書きは、タイピングで行う。</p>

3 本時の活動

Title	6年 Let's Read and Act 2 『The Letter』 (2 / 3)	
目標	音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、伝えたい気持ちを表す表現を考 えることができる。	
語句・表現 (単元)	未習	sat, ran等の不規則動詞の過去形 / ○○ was ~. / You are ~. 等
	既習	挨拶, 気持ちを表す語句や表現
準備	プロジェクター (大型モニター), Chromebook	
学習過程	学習活動	研究との関わり・留意点
Warming Up 5分	1 Greeting (2 min.) 2 Small talk (3 min.) ・北京オリンピック・パラリンピックに関する話題につ いて、Teacher's talkから発展させる。	・ Lesson 6 「Olympics & Paralympics」の既習表現を想起で きるようにTeacher's talkを行って から児童同士のやり取りとする。
聞く・まねる (技能習得) 15分	3 Demonstration (3 min.) ・前時の『The Letter』の終末を想起させ、自分も大切な 人に手紙を書いたことを紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> Dear Yusuke, Thank you very much! Mimura Hitoshi </div> ・「え、たったこれだけ。」 ・「何が“Thank you”なの。」 ・実際に英語で書けそうかを問う。 ・「簡単な手紙なら書けそう。」 ・「細かく書くなら難しそう。」 ・「誰に向けて書くのかにもよる。」 4 Today's goal (1 min.) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 手紙に使えるような語句や表現を考えてみよう。 </div> 5 Let's listen 1 (4 min.) ・手紙のモデルを示し、伝えたい内容や表現を確認する。 6 Let's listen 2 (5 min.) ・文の順序が不自然であるものを示し、伝えたい内容と 適切な順序を考える。 ・「いきなり最初に①が入るかな。」 ・「④が最後だと、①が伝わらない。もらって嬉しい文で はないと思う。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> ※上記5及び6で提示したものは、次ページ以降を参照 </div>	・実際に書いたものを拡大して提示 する。 ◇語句や表現に慣れ親しむことを支 えるICT機器の活用 研究視点2 ・手紙のモデルはロイロ・ノートス クールのテキストカードで配付 し、一部をマスキングしておき、 児童とのやり取りをしながら表 現を確認する。 ※後から表現を確認できるよ うに、音声データも入れておく。
使う (技能習得) 20分	7 Let's think (20 min.) ・実際に、書く対象を想定して、使えるような表現を考 える。 ・例として、学習活動3で示したものを活用し、書く内 容(表現)を考える。 ・感謝やお礼、励まし、思い出を語るなどの内容や書く 対象を決めて、下書きをする。 ・書く対象については、この時間で絞り込むことを求め ない。 ・途中で、使えるような表現について交流の時間をとる。 ・音声で慣れ親しめるように発話する時間もとる。 ※ロイロで提出し、回答共有する。	◇語句や表現に慣れ親しむことを支 えるICT機器の活用 研究視点2 ・ワークシートは、ロイロのテキス トカードで配付する。 ◇コミュニケーションの楽しさにつ なげる評価 研究視点3 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【思考・判断・表現】※記録なし 音声で十分に慣れ親しんだ語 句や表現を用いて、伝えたい気持 ちを表す表現を考えている。 <観察、テキストカード> </div> ・適宜、考えを取り上げ、全体交流と する。
振り返り 5分	8 Looking back (4 min.) ・学習活動7を振り返ることにより、次時の手紙作成へ の見通しをもつ。 9 Greeting (1 min.)	

○音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を読んでいる姿 (学習活動5・6)

○慣れ親しんだ語句や表現の使いどころを考え、文字によるコミュニケーションを楽しむ姿 (学習活動7)

4 授業の実際

CAN-DO リストを基に学習内容を精査した指導計画

年間指導計画は、教科書の配列を参考に作成しており、扱う内容が豊富にあります。しかし、指導する学級の児童の実態によっては、内容が過剰であったり、不足していたりすることも考えられます。また、学校行事や社会的なイベントなど、指導する時期と学習内容の関連を図ることは、外国語の学習で大切にしているコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を設定する上で重要です。

本単元の実施時期である3学期は、小学校の学習の総まとめの時期です。加えて、卒業を控えた時期であることから、「感謝の気持ち」などを伝える場面の設定としては、最適な時期です。そこで、教科書で扱っている内容をCAN-DOリストに照らし合わせて学習内容を精査し、「読むこと」及び「書くこと」に焦点を当てた単元構成としました。

<CAN-DOリスト 「6年 書くこと」6-5-イ>

自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。（置き換える文や語句は例示する）

<当初の計画>

Lesson 7 My Best Memory (5時間扱い) ※前単元	「書くこと」 単元の終末では、友達やお世話になった人に感謝の気持ちを伝える「Thank You Card」を書く。
Let's Read and Act 2 『The Letter』 (2時間扱い) ※本単元	「書くこと」 単元の終末では、自分の大切な人に思いを伝えるための短い手紙を書く。
<ul style="list-style-type: none"> ・連続する単元で、類似した学習内容が存在する。 ・「感謝の気持ち」を伝える場面は、卒業を控えた3学期に設定することが適切。 ・文字によるコミュニケーション活動が少ない。 ・「書くこと」を充実させるため、まとまった時間の設定が必要。 	

<考慮した実態と精査した学習内容>

- ・L7「書くこと」の終末1時間分を、LRA2の「書くこと」の1時間分と合わせる。
- ・『The Letter』の内容から、手紙の価値を考える。そして、実際に対象を決めて英語を使った手紙を書く。

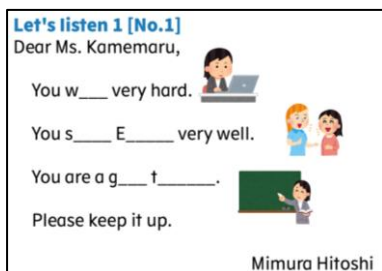
上記の2つの単元では、「書くこと」において類似した活動が設定されていました。そこで、指導の時期やこれまでの内容の取扱い、児童の学習状況等から学習内容を精査しました。このことによって2つの単元全体の指導時間を変えることなく、「書くこと」の指導に十分な時間を設けることができました。また、新出・既出の語句や表現を継続的に使って学習を進めることもできました。

語句や表現に慣れ親しむことを支える ICT 機器の活用

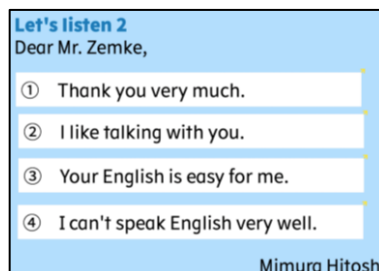
「読むこと」と「書くこと」の指導においては、「音声と文字とを関連付けて指導すること」とされており、音声で十分に慣れ親しんだものを扱うことが大切です。本単元で扱う物語『The Letter』については、ALTやJTEの発音を繰り返し聞いて慣れ親しむことの他に、児童一人一人の実態に即した学びの機会を保障するために、ALTやJTEが物語を読み上げて録音したデータをいつでも端末で聴き直すことができるようにしました。これらの手立てにより、登場人物である“Frog”と“Toad”のやり取りを再現する活動では、端末を活用しながら互いに読み合う練習をする姿が見られました。

本単元における「書くこと」では、自分の力で英語を使った手紙を手書きすることとしました。自分の伝えたいことを相手に伝えるためには、その内容を考えることに加え、正しい表記で表現することも欠かせません。そこで、タブレット端末を使用し、タイピングしてから下書きすることで、文字の形やスペース等に目を向けられるようにしました。

この活動につなげるために、本時の5及び6において手紙のモデルを示し、手紙で伝えたいこととその表現を確認したり、より適切だと考えられる文の順番を考えたりする活動を取り入れました。



【本時5で示した手紙のモデル】



【本時6で示した手紙のモデル】

こうした手立てにより、これまでの学習で獲得した表現を想起しながら手紙で伝えたい内容や見えそうな表現を書き出したり、モデルの文の一部を他の表現に置き換えたりしながら、手紙の下書きを進めました。端末を使用することにより、語句と語句の間隔を適切にとったり、修正したりすることが容易であることから、試行しながら作成する姿が見られました。

中には、「翻訳サイト」を活用して使いたい語句や書きたい文を調べたり、自分で書いた文を「翻訳サイト」に入力して書いた文が適切かどうかを調べたりする児童もいました。一人一台端末により、「翻訳サイト」を容易に利用できるようになった反面、より適切な利用方法を共有しなければ、「音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を扱う」ことから逸脱してしまうおそれもあります。読み上げ機能により音声を確認したり、和訳機能を使ってある程度の正確性を簡単に確認したりするなど、あくまでも「語句や表現に慣れ親しむことを支える」ためのICT機器の活用方法を児童と共有する必要があります。

Let's think ~見えそうな表現~

Thank you for always making delicious rice

Will do the housework.

It's been very helpful.



【手紙に見えそうな語句や表現を考える児童の姿とその一例】

IV 3年次研究の成果と課題

3年次研究では、「CAN-DO リストを基に具体化した指導計画」と「語句や表現に慣れ親しむことを支える ICT 機器の活用」を重点として研究を進めてきました。

1 研究の成果

- CAN-DOリストに照らし合わせて学習内容を精査したり指導時期における文脈を反映したりすることにより、新出・既出の語句や表現を継続的に使って学習を進める単元構成とすることができました。
- ICT機器を活用して語句や表現に慣れ親しむ機会を保障したことより、児童一人一人の学びを支え、実態に即した学習活動を展開することができました。
- ICT機器を活用することにより、「書くこと」への抵抗感や負担感が軽減し、自分の伝えたいことをまとめたり、書いたりすることができました。

2 今後の課題

- 自律的な学びを継続的に支えるためには、CAN-DOリストを児童と共有し、「できた」ことと「目指す」ことを分かりやすく示す必要があります。
- ICT機器の活用について、個別の学習を支える活用事例は増えてきましたが、コミュニケーションが主体となる外国語の学習においては、児童相互のコミュニケーションツールとしての活用方法を見いだしていく必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省 開隆堂 平成29年7月
- 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省 平成29年6月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所 東洋館出版社 令和2年6月
- Q&A小学英語指導法事典 樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子 編著 教育出版 平成29年10月
- 小学校外国語教育の指導と評価 直山木綿子 監修 文溪堂 令和3年4月
- 英語教育 Vol.70 No.2 「第1特集 GIGAスクール環境を生かした指導アイデア」 大修館書店 令和3年5月